

# くろつち便り

内容：参院選／第71回長崎原爆祈念集会(8/9日)／文化祭に向けて／9条新聞意見広告(〆切 7/22)支部大掃除(7/23日)／大人の時間は短い？

## Japent / 院選

文責 樋園哲思

参議院選挙は残念な結果に終わった。海外はどう見ているか気になるところである。

米ウォールストリート・ジャーナル紙(電子版)は、参院選の結果について、「偉大さではなく、安定が安倍に勝利をもたらした」と分析している。

「アベノミクス」は、本格的な経済成長にはつながらなかったと指摘、しかし「不運な指導者が続いた後」でしかも「対立候補はアベノミクスが富裕層優遇だと批判したが、反エリートの宣伝文句の欠如が政治的点数を稼ぐのを難しくした」とも述べている。つまり野党側には決定的な宣伝文句が欠如していたというわけである。

憲法問題や安保法は、うまくかわされて争点に浮かんでこなかった。しかし安倍は、危険な方向へ進もうとしているのは明らかである。

Japent という英語はない。樋園の造語である。

先月、イギリスの国民投票が話題になった。「離脱」に投票した人達の間で、後悔の念が広がっているというニュースも目にする。それに関連しての新語が面白い。

British(又は Britain)と exit(退去)から、Brexit が生まれ、投票結果に後悔(regret)して、Regrexit とか Bregret という新語が登場した。

さて、今度の日本の選挙結果が、憲法改悪や徴兵制へとつながって行きそうで、恐らく「ああ、あの時・・・」と後悔する時が来るに違いない。

その内にインターネットで「Japent」(Japan が repent(後悔)する)という新語が登場するかも知れない。いや、そうならないようにしなければならない。

下↓ 6/14日 街頭演説



右→ 下町候補と

## 知事選

今回の選挙で、ちょっとだけ気持ちが救われたのは県知事選です。

新知事の三反園訓氏は「反原発」とまではいなくても、今のところ積極的に推進すると

いう立場ではないからです。

しかし、原発はうんざりだと考えている人達の支援があって、大差で勝てたわけです。

新知事が原発推進に舵を切ることがないように、見守る必要がありそうです。

## 輝け憲法九条!

毎年8月15日南九州新聞に掲載している意見広告。個人500円です。募金〆切7月22日

8月9日(火) 第71回長崎原爆祈念集会 / 10時~11:30 / イベント広場

毎月第1金曜に実施している脱原発集会と、毎年長崎原爆記念日に実施している反戦座り込み集会を兼ねて実施。多数の参加をお願いします。

## 教育会館清掃

今年度も、「教育会館清掃」を計画しています。

日時 2015年7月23日(土) 午前8時から

持参するもの(自分が使える道具)

鎌、クワ、スコップ、

曲り鎌などの除草道具、剪定ばさみ、

ビーバー、ほうき、熊手、ぞうきん等々

※軽トラック、一輪車をお持ちの方、貸してくださると助かります。

多くの方々の参加をお願いいたします。



## くろつち作品展

11月1日(火)~7日(月) 10:00~20:00

会場 プラッセだいわ鹿屋店 1階フロア

ただ今、出品予定者を募っています。

## 光陰矢の如し 1

文責 樋園哲思

「もう1ヶ月も過ぎたの?」「あれからもう1年?」などと感じたことはないだろうか。若い頃からは、最近<sup>とき</sup>は時間の経つのがどうも速い、と感じるのは僕だけではないようだ。あまりに速く過ぎるので、日常の生活に焦りさえ感じるほどである。

「ジャーネーの法則」(1885年)というのがあるそうだ。それによると生涯のある時期における時間の心理的長さは年齢の逆数に比例する(或いは年齢に反比例する)という。

例えば、1年生(7才)の子にとっては1年(365日)は人生の7分の1に感じ、70才の大人にとっては、人生の70分の1に感じる。つまり1年生の10倍も短く感じるというのだ。小学校1年生の1日は、70才の者の10日にあたるわけである。

実験を伴っていないので実際のところは分からないが、古来年齢と共に時間を短く感じてき

たのは事実で、科学(特に心理学)の対象にもなって様々な実験がなされている。

一川誠(千葉大)らの研究及び解釈によると、若い子は身体や心が活性化していて代謝が激しいので、心的体内時計が速く進む。だから本人は1時間経ったと思ったけど、実際はまだ経っていなかったということになる。刺激的で楽しい時間はあっという間に過ぎるわけである。

ところが年を取ると身体的代謝が低下し、時間がゆっくり進むように感じるという。だから本人はまだ1時間経っていないと思っているのに、実際はとくに過ぎていて「えっ?もう?」ということになるという。

本人は若い頃と同じだと考えていても、若い頃よりも何をやるにも確実に作業能力が劣ってきているはず。若い頃は1時間で仕上げていた作業をやっとこさし終えたけど、「もうこんな

時間?」ということが多いに違いない。

本川達雄(東京工大名誉教授)のベストセラー「ゾウの時間ネズミの時間」(1995年中公新書)は、動物種によって寿命は違うけど、一生のうちに打つ総心拍数はほぼ同じだ。総心拍数を軸に考えると、どの動物種も一生の長さはほぼ同じだ。つまり駆け足で過ごす(鼠)か、ゆったり過ごす(象)かの違いだ、ということだったように思う。

ひよっとするとゾウは、人間よりも時間を短く感じているかも知れない。



昨年の5月、米軍の空中給油機問題で市役所前で抗議集会があり、7月は各地区説明会で揺れたのを思い出した。

えっ、もうあれから1年過ぎたの?

「くろつち便り」原稿募集 題材自由  
字数制限なし(但し長い場合は2回に分けて掲載)

(原稿送付先) メール tezono@po5.synapse.ne.jp  
FAX 0994-43-1141 樋園哲思 鹿屋市新川町180-4